

# 超音波内視鏡

## TOPICS



「ボン、ボン」という音で、遠くの打ち上げ花火に気づくことを経験されたことがあると思います。私たちは、耳で聞こえる音を通して周囲の状況を認識しています

が、人間の耳に聞こえない音（超音波）も日常に溢れています。

コウモリやイルカが超音波を利用して周囲の状況を把握することはよく耳にしますが、イヌ、ネコ、ガなども超音波を利用していると言われてますし、私たちの生活でも超音波はとても身近な存在です。

例えば、自動洗車装置が洗車する際にも超音波センサーで自動車の形状を把握して車体との適切な距離をとっていますし、有料駐車場では駐車スペースの真上の超音波センサーで空車や満車の情報を把握しています。店頭でのメガネや腕時計のお手入れでは超音波洗浄機が利用されますし、芳香剤を噴霧するアロマディヒューザーなどでも超音波が役立っています。洗面所で手洗いするとき手を蛇口にかざすと自動的に水が出る時も、自動ドアが開閉する時も超音波センサーが感知しているのです。

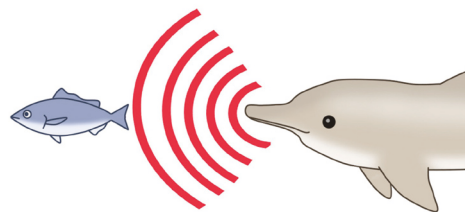
このような多方面で活躍している超音波ですが、その歴史は今から143年前に遡ります。1880年にフランスのキュリー兄弟によって発見されたのを端緒に、1917年にはフランスのランジュバンが潜水艦探知機（ソナー）を開発し、医療の分野では1942年に脳の検査で初めて利用されました。その後、1949年に腹部の検査で初めて胆石が観察され、1954年には

心臓の観察に応用され始め、今となっては全身の検査に超音波が不可欠となっています。しかし、体の表面からの超音波検査だけでは、体内の深いところにある病気を発見できないことが課題でした。そこで、内視鏡の先端に超音波装置を付けて消化管から内臓を詳しく調べる試みが、1977年に世界に先駆けて本邦の久永光造医師によって行われました。特に沈黙の臓器と言われる膵臓のほか、胆管や胆のうなどの胆道系と言われる臓器にできる腫瘍は体内の奥に潜んでおり、進行した状態で発見されることもあるため、できるだけ早くに発見することが望まれますが、その際に力を発揮するのが、消化管から超音波で内臓を観察することができる「超音波内視鏡」です。

国立研究開発法人国立がんセンターの最新のがん統計によりますと、がんでお亡くなりになる患者さんの数（男女計）は、第1位が肺、第2位が大腸、第3位が胃、第4位が膵臓ですが、その内、男女ともに増加傾向なのが膵臓がんです。

当院では超音波内視鏡検査を積極的に行い、膵臓以外にも色々な病気の早期発見、早期治療に貢献したいと考えておりますので、お気軽にご相談下さい。

消化器内科 玉置 道生



とうめい厚木クリニック

〒243-0034厚木市船子237

TEL.046-229-3377 FAX.046-229-1935

<https://www.tomei.or.jp/clinic/>



予約・お問合せ電話番号

☎ 046-229-1950